

当社、滑水シリーズの**効果をUP!** 単独で使用されても高い効果を発揮します!  
 <滑水シリーズ (シャワープール滑水、HV-coatGR Premium(滑水)、HV-coatF(滑水))>

**世界初! ※滑水角5度搭載!**

※平成31年2月現在



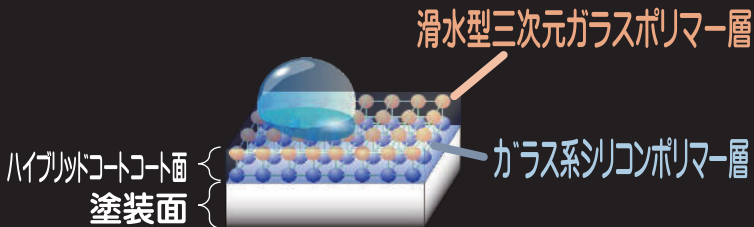
# HV-mainte 滑水

- ★ 新車等への黄砂・酸性雨対策に効果的です。
- ★ 黒・紺等“濃色車”の施工上問題となっていた、モヤモヤ・ムラムラをスッキリと解決できます
- ★ 滑水型三次元ガラスコートメンテナンスにベストです。

◎ 「撥水」は当然! 油分まで弾く「撥油」性能!



## 愛車を守るためのハイブリッド構造



ハイブリッド構造のポリマー層があらゆる汚れを寄せ付けず、塗装面を守ります。

(画像はイメージです)

## 施工可能箇所(新車専用)

- ・自動車塗装面 ・アルミホイール ・ガラス面(フロント除く)
- ・樹脂部分(未塗装部分も可) ・黒シボ樹脂
- ・家具・浴槽・トイレ・事務機・看板(金属製、樹脂製)

## 有効期間 (目安)

撥油性: 約12ヶ月

滑水性: 約24ヶ月

(有効期間の撥油性はメーカー調べ、撥水性は大阪市立工業研究所調べです。有効期間は車両の置かれている条件により差が出ることがあります。)

## 〔撥水促進試験結果〕

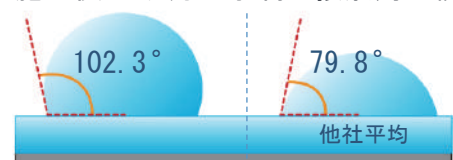
実際の太陽光・雨などを想定した試験データ ※1

| 特徴       |                    |
|----------|--------------------|
| 主成分      | 3次元滑水型<br>ガラス系ポリマー |
| 耐久力      | 24ヶ月以上※1           |
| 接触角(1年後) | 102.3度 ※1          |
| 作業時間目安   | 30分 ※2             |

接触角とは..

施工面に対して水滴がどれくらい弾いているかを示しています。

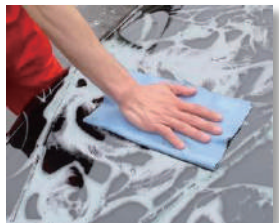
施工後12ヶ月の水 droplet の接触角比較※1



※1 2013年10月大阪市立工業研究所調べ(同等品)。※2 中型車の場合。  
 ●この試験結果は全ての条件において効果を保証するものではありません。  
 実走行車両の場合は、塗装面上に乗るホコリや砂などで接触角は変わります。  
 また、取り扱い条件などが車両ごとに大きく異なりますので、促進試験データはあくまで参考資料にとどめてください。

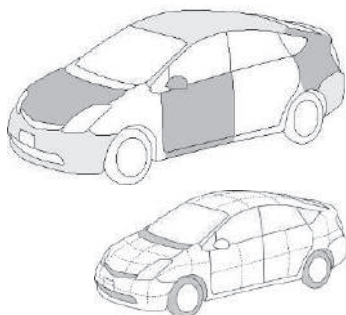
#06355 HV-mainte滑水 500ml (トリガー付きボトル)  
 #06356 HV-mainte滑水 5L

1



汚れが多いときは「カーシャンプー」を50倍に希釈してボディを洗います。(ホコリなどの軽い汚れだけの場合はマイクロセームを使用した水洗いでOKです)  
洗車後、マイクロファイバークロスで大まかに水分を取って頂くと効率的です。

2



以下の作業は、部分ごと(ボンネット、フェンダー、ドアパネル、ルーフといった感じ)に行います。ボンネット、ルーフは半分ずつくらいを目安に行うとラクに作業できます。

夏場等、温度が高くなり液の乾燥が早い場合は、車体を十分に冷やして日陰で「ワンプッシュ」で60cm四方ずつを目安に作業してください。

3



① 水で濡らし固く絞ったマイクロファイバークロスに「HVmainte滑水」のスプレーガンを15cm程度離してワンプッシュ吹き付ける※。



② 「HVmainte滑水」を吹き付けたマイクロファイバークロスで②を目安に液を延ばしてください。

③ その後、一旦水で湿らせ固く絞ったマイクロファイバークロスで40~50cm四方を拭き、すかさず乾いたマイクロセームで乾拭きして仕上げてください。



④ 次の場所を①から繰り返してください。

- ※ マイクロファイバークロスの新しい面を使用する時は、2回プッシュして下さい。その後は、60cm四方に対してワンプッシュで十分です。
- ※ 本液をたくさん塗布されるとムラの原因になります。出来るだけ薄く延ばしてください。(薄く延ばしても十分効果が出ます)
- ※ ムラになった場合は、再度ワンプッシュ塗り延ばす作業を行ってください。

- 必ず、専用マイクロセーム又は専用マイクロファイバークロスをご使用ください。(乾いた通常のタオルでボディを拭きますと傷が入ります。)
- 汚れが目立ってきましたら、最初に当社カーシャンプー(水で50倍希釈)で洗車してください。
- ピッチ・タールが付着しましたら、専用クリーナー(別売 HV+滑水等)をご使用ください。
- マイクロセーム・マイクロファイバークロス等が汚れていると作業が進めにくいので、中性洗剤(台所洗剤等)で揉み洗いして下さい。
- ボディが熱い状態での作業(炎天下等)は絶対に避けてください。
- 作業を始める前にボディを十分に冷やしてから、日陰で作業してください。